

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	3893600019
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 慶雲
所在地	喜多郡内子町大瀬中央5652番3 (電話) 0893-47-0077
管理者	松田 幸博
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15
訪問調査日	平成 20 年 10 月 31 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 6 日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	10 人
非常勤	5 人
常勤換算	13.3 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有()円	○ 無	
保証金の有無	有()円	有りの場合	
(入居一時金含む)	○ 無	償却の有無	
食材料費	朝食 240 円	昼食	380 円
	夕食 380 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 1 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.5 歳	最低 67 歳	最高 96 歳		

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、町が住宅用地として切り開いた山間部の造成地に建ち、テラスからは町の風景や自然を一望することができる。建物は平屋建ての日本家屋で、玄関を中心に2ユニットが両サイドに配置されている。ユニット間は自由に移動でき、開放的な雰囲気がある。同ホームの運営法人は8か所のグループホームを経営し、しっかりとした理念を掲げ運営に取り組んでいる。また、医療機関とも十分な連携をとり、24時間サポートが可能な体制のもと適切なサービスを実施している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)

課題について話し合い、できることから改善していこうという姿勢で取り組んでいる。運営推進会議については、ホームの状況報告のみでなく、認知症についての勉強会など様々な取り組みをはじめている。また、自治会長、区長、民生委員など地域の有識者を新たにメンバーに加えることで、活発な意見交換ができてきている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)

職員全員が各自で自己評価をすることで気づきがあり、またミーティング時にそれぞれ意見を出し合うことで新たな考え方や思いを知ることができ、ケアの質の向上に役立っている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)

ホームの状況報告のみでなく、認知症や救命救急法、栄養管理等に関する勉強会を実施している。また、自治会長、区長、民生委員など地域の有識者を新たにメンバーに加えることで、活発な意見交換がなされている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)

利用者の暮らしぶりは、毎月発行のホーム便り等で詳しく知らせている。また、健康状態や金銭管理の状況については、家族がホームに来院した際に個別に報告している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)

自治会には加入していないが、地域からの呼びかけがあり、運動会、農業祭、道路清掃、球技大会、映画会等の地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム慶雲

(ユニット名)

東 棟

記入者(管理者)

氏 名

松田 幸博

評価完了日

平成 20 年 9 月 11 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ユニットでスタッフ・入居者と一緒に理念を作って見やすい所に掲示している。	※	ケアカンファレンスで定期的に評価しているが、入居者の意見も定期的に聞きながら変更も考えていく必要がある。
			(外部評価) 創設以来大切にしている法人の理念に加え、各ユニットごとに具体的でわかりやすい理念を、職員全員で話し合っている。	※	理念について積極的に取り組んでいるが、さらに地域密着という概念を充実させ、地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを実現する理念を検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) スタッフと入居者の見える位置に掲示し、共有できるようにしている。	※	毎日読む機会を作り、より一層浸透するようにスタッフ・入居者全員で取り組んでいく。
			(外部評価) 各利用者の持てる力をフルに活用して、笑顔で仲良く助け合い、自由に自分らしく生活できるよう、日々実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族によっては面会時に読んで頂いている方もおられ、質問時にはスタッフが分かりやすく説明をしている。	※	毎月送付している新聞“青葉”で記載したり、運営推進会議にて発表の場を作って報告したり、地域の回覧板で回したり今後取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣り近所に家がなく付き合いが難しいが、散歩時に挨拶したり会話をしている。	※	気軽に立ち寄ってもらえるよう日々近隣の人たちに挨拶や会話をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 道作り、地区対抗球技大会、運動会、映画祭の参加。地元の中学校の職場体験学習。また、地域のご好意により、門松を作って頂いた。 (外部評価) 自治会には加入していないが、地域からの呼びかけがあり、運動会、農業祭、道路清掃、球技大会、映画会などの地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。	※	今後も交流の場を広げていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 少しずつ入居者は生活に慣れ、スタッフも業務に慣れてきたが、地域貢献はまだまだ十分ではない。	※	事業所での行事に参加してもらえるよう、地域に呼びかけをしたり、運営推進会議で要望があれば前向きに取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価についての認識はあるが、新しいスタッフが入りまだまだ外部評価の浸透が不十分である。 (外部評価) 職員全員が各々自己評価をすることで気づきがある。ミーティング時にそれぞれの自己評価を出し合い協議することで、新たな考え方や思いを知ることができ、ケアの質の向上に役立っている。	※	外部評価についての説明の機会を作り、スタッフが評価の意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいけるよう努めていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の出席者にまずグループホームについてより一層理解して頂けるような議題での意見交換を行っている。また、運営推進会議の意義を理解できるようにスタッフも交替に参加している。	※	地域での出席者を集っていききたい。また、今後も全スタッフが運営推進会議の意義を理解していくよう努めていききたい。
			(外部評価) ホームの状況報告のみでなく、認知症や救命救急法、栄養管理等に関する勉強会も実施している。また、自治会長、区長、民生委員など地域の有識者を新たにメンバーに加えることで、活発な意見交換ができるようになってきている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月1回行っているグループホーム連絡協議会に必要に応じて市町村の担当者と意見交換を行っている。そして、グループホーム連絡協議会主催の合同運動会・研修会にも参加して頂いている。	※	今後も継続して行っていきたい。
			(外部評価) 町グループホーム連絡協議会の活動などを通し、連携を深めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、業務カンファレンスにて全スタッフに発表している。		今後も研修等に積極的に参加し、権利擁護や成年後見制度に関する知識を深め、全スタッフに浸透させていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 運営者より虐待防止に関する資料を配布され、ケアカンファレンス・業務カンファレンスにて周知徹底を図っている。	※	まだ研修会に参加出来ていない為、今後研修に参加し全スタッフに浸透させていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明が出来るよう努力している。所々で質問を促す配慮も行っている。また、解約時も家族に十分に説明を行いゆとりある接し方を心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者より気軽にスタッフへ直接訴えられている。また、家族からも本人の訴えをスタッフに相談されることもある。申し送りノートを活用し全スタッフに分かるように取り組んでいる。	※	今後も、入居者一人一人とコミュニケーションを取る機会を作り気軽に訴えられるように努力していきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 入居者の暮らしぶりについては新聞“青葉”の部数を増やし写真を多く取り入れ毎月報告している。健康状態・金銭管理状況については面会時に報告している。	※	職員の異動については、報告出来たり出来なかったりとあやふやなので、入社時は新聞“青葉”にて紹介していくよう取り組んでいきたい。
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりは、毎月発行のホーム便りで詳しく知らせている。また、健康状態や金銭管理の状況については、家族がホームに来訪した際に報告している。	※	一人ひとりの生活全般に関する状況については、方法を工夫しながら、更に詳しい状況をこまめに家族に伝えていくことが求められる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に苦情等に関して記載しており、契約時説明をしている。また、グループホーム慶雲の玄関にも意見箱を設置。直接苦情・要望等があれば申し送りノートにて全スタッフに分かるようにしている。	※	意見を気軽に出して頂けるよう面会時・新聞“青葉”等でも呼びかけていきたい。
			(外部評価) 運営推進会議にも参加してもらい、気軽に意見を出してもらえるよう配慮している。車いすを歩行器に変えてみてはという意見をもらい、実行に移すことができたケースもある。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 業務カンファレンスにてスタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。	※	意見を述べにくいスタッフがいる為、別の機会を作る必要があると思うので取り組んでいきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 家族より希望がある場合は、出来る範囲でおこなっている。(歯科、耳鼻科、眼科等の受診)		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) お別れ会をユニットで行い、花束等を入居者から渡すように配慮している。 (外部評価) 運営法人のグループホーム開設が相次いだこともあり、法人内やフロア間での異動がある。しかし、引き継ぎには十分な時間を取ることで、利用者に影響がないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等に参加出来るような体制を作ったり、施設内での研修会・勉強会を行っている。 (外部評価) 運営法人としての基本研修、ホーム内での課題研修を実施しているほか、グループホーム連絡協議会等が実施する研修にも順番に参加している。	※	まだまだ研修に参加できていないので、全員が研修に参加出来るように取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月1回グループホーム連絡協議会を行い介護の質の向上に取り組んでいる。 (外部評価) 町グループホーム連絡協議会が実施するイベントや会議を通して、相互の交流や情報交換を行っている。	※	今後も継続して交流を図っていききたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に親睦会を行っている。	※	業務内での休憩時間を是非作れるよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 少しずつ向上心を持って業務に取り組んでいるスタッフも増えてきている。	※	運営者には是非会社にあっても持てる体制にしていってほしい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 個別に入居者とコミュニケーションを取り、よく話を聞く機会を作っている。また、事前調査時に入居者に十分に説明をするように心がけている。	※	事前調査時のコミュニケーションにも偏りが見られるので、家族と入居者個別の対応が出来るように努力していきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査時に家族の要望・希望等を聞くよう配慮し、入居後も面会時、電話にて聞いている。	※	今後も相談から入居に至るまでに十分な話し合いの時間を設け、入居後も連絡を密に取っていききたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、グループホームとしての必要事項を聞き、該当しない場合は居宅支援事業所や役場へ紹介している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人が納得するよう家族へ説明し、面会をみつにして頂くよう配慮している。また、事前にグループホームを見学して頂き本人の不安を取り除く配慮をしている。		
			(外部評価) 入居前に、事前調査として自宅や病院等を訪問し、本人及びその家族、医師、ケアマネジャーなど関係者に状況を聞いている。また、事前に本人、家族に来訪してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。	※	利用者の意向を十分に汲み取れるよう、気づいたこと等をこまめに記録するとともに、職員で共有してケアに活用していくことを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 料理や畑仕事等を入居者から学んだり、支えあいながら行っている。また、日頃のコミュニケーションより方言や慣わしを聞いたり楽しく生活を送っている。	※	まだまだスタッフ中心になっている事があるので、入居者中心の生活が出来るよう心がけていきたい。
			(外部評価) 言葉使いや、料理の味付けなどの家事全般において、利用者の知恵をかしてもらっている。また利用者の「ありがとう」という一言に支えられ、常に互いを支えあうという気持ちが表れている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族によってバラツキがある為、面会が少ない家族に呼びかけているが家族と協力して入居者を支援出来ていない。	※	今後も面会の少ない家族にはこちらから呼びかけて家族と一緒に支援出来るよう取り組んでいきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族からの要望は受け入れているが、なかなか入居者からの要望は受け入れ出来ていない。	※	今後も入居者と家族のパイプになれるよう努力していきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や知人に電話をかけたいと希望されるが支援できていない。	※	馴染みの人との関係が切れない為に、家族と協力しながら働きかけていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 円満な人間関係が築けるように、スタッフが間に入るように努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) お見舞い等に行き、様子を見たりコミュニケーションを取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを取り、思いや意向を開き出すよう努めている。また、コミュニケーションが取れない入居者は家族の意向を踏まえながらケアカンファレンスにて話し合い本人本位に検討している。 (外部評価) 日々の生活の様子から汲み取るほか、職員から働きかけて意向を引き出すよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人と家族よりこれまでの生活歴等を聞き把握している。また、面会時にも随時聞いている。	※	生活環境を知る為にも、今後自宅訪問等を行っていきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録・経過観察記録・介護業務日誌・水分チェック表に記録している。大切な事は申し送りノートにて対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスを行って十分な話し合いのもと家族にも報告している。また、必要に応じて主治医の意見も取り入れている。 (外部評価) 職員がそれぞれ自分の担当する利用者についてチェックを行い、月1回のカンファレンスで共有し、気づきや意見を話し合って具体的な介護計画を作成している。	※	他職種の意見も取り入れていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月ケアカンファレンスにて話し合っている。ケアプランについては変更時は同意の下に行っている。また、状態変化によるプランの変更も家族と相談して行っている。 (外部評価) 短期目標も設定し、現状に即したケアを常に意識して実践に取り組んでいる。短期については3か月という期間を決めているものの、毎月評価と見直しを行い、必要があれば随時新たな計画を作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の記録については、介護日誌・経過観察記録にて行っている。情報の共有に関しては、介護業務日誌・申し送りノートにて行っている。	※	行動については十分に記録出来ているので、今後は言動について細かく記録出来るように取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 家族・入居者の要望に応じて柔軟な支援を行っている。 (歯科、耳鼻科、眼科の受診等)	※	今後いろいろな要望が出てくると思うが、柔軟な対応が出来るよう努力していきたい。
			(外部評価) 医療機関への受診など、本人及び家族の状況や希望に応じた柔軟な支援を行っている。	※	今後はさらに要望を十分に汲み取るための工夫を重ね、より柔軟に対応できるよう、支援体制を充実していくことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 保育園と一緒に敬老会を行った。消防署協力の下、避難訓練や普通救命講習を受けた。	※	他の地域資源との協働も取り組んでいきたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 事例がない。	※	機会があれば考えていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) まだ計画していない。	※	今後、機会があれば行っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) サービス利用開始前に主治医の説明をしている。月2回、主治医の往診、必要時は受診支援を行っている。 (外部評価) かかりつけ医と協力医療機関が連携し、利用者の健康管理を支援している。協力医療機関とは、毎朝利用者の状態を報告し、また月2回往診に来てもらっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神南診療所にて対応している。また、家族が他の病院を希望される場合は、その病院で対応している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、神南診療所より電話があり、その日の状態を報告している。また、医療連携での看護師に随時相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、情報提供書を作成したり、主治医と相談し早期退院に向けて努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に重度化についての資料を渡し説明。状態が悪化した時には今後の事について家族と主治医と話し合っている。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する具体的な指針をつくり、入居時に説明を行い、必要に応じて医師を交えての話し合いも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度化や終末期には家族と蜜に連絡を取り、今後どのように対応していくかを主治医と話し合い、それを下に家族の了解を得て対応している。	※	今後も終末期については主治医と家族への連絡を蜜に取り十分な体制で取り組んでいきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供書により介護関係者から情報交換を行い、混乱を最小限に出来るように取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 入居者を尊重した言葉掛けを心がけている。記録に関してはイニシャルで記録している。契約時にプライバシーの説明をし、情報の使用の同意を得て行っている。 (外部評価) 声かけや介助の際にプライバシーを損ねないよう配慮している。職員には守秘義務について繰り返し指導を行っている。	※	今後、馴れ合いによる本人尊重でない言葉掛けに気をつける。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 納得できるような言葉で説明をしている。	※	今後も入居者の身になって分かりやすい言葉で説明をしていく。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望にそえないことがあるときは説明をしているが、スタッフ優先がちの日課になっている。 (外部評価) 積極的に家事をする方、毎日歩いて畑を見回る方、カラオケや歌を楽しみにしている方、自分の育てる花を大事にしている方など、その人らしい暮らしを送っている。	※	出来るだけ希望にそえるよう努力していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 出張美容の時には、本人の主張のもと行っている。また、外出時には衣類についての助言、買い物のとき本人の希望のものを購入している。	※	今後、外出時などは化粧療法などを行っていきたい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備と片付けは一緒に行っているが、時間におわれ一緒に食べることが困難である。介助が必要な入居者に応じた対応をしている。 (外部評価) 利用者と職員が一緒になって料理の下ごしらえをしている。座席の配置を工夫して、会話の弾む楽しい食事の雰囲気をつくっている。	※	今後も入居者に応じた対応をしていく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好については把握できてきているが、健康状態等により制限がありなかなか支援ができていない状態である。	※	出来るだけ本人の希望にそえるような対応をしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 尿意・便意がある方はプライド・羞恥心を配慮しながら自然排泄が出来るようケアプランを通して実施している。	※	家族を交えた支援を今後取り入れていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日や時間は決めず出来るだけ本人の意思を聞いているが、介助が必要な入居者におわれ、希望時に支援出来ないこともある。 (外部評価) 利用者が入浴したいと思った時にできるような支援体制を整えている。また、羞恥心を考え、介助する職員の性別にも配慮している。	※	今後、入居者中心の支援を行っていく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の意思のもと、休息したい時には休んで頂いているが、昼夜逆転の入居者の方もおられ安眠できていない方もおられる。	※	眠前薬を服用されている入居者がおられるので、今後主治医と相談しながら中止できるよう努力していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴の把握がまだまだ不十分である。役割りに関しては、執着が見られるほど役割りを持って生活を送れている。 (外部評価) 買い物、洗濯など利用者それぞれが得意な家事を行うことを大切にして見守っている。また、野球や相撲観戦、新聞、風船バレーなど、それぞれの楽しみごとを支援している。	※	役割りに偏りが見られるので、偏りなく役割りを行ってもらおう。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族の希望もあり大きなお金はこちらで管理し、小さなお金は本人が管理している人もいる。基本的にこちらで管理している。	※	今後、物盗られ妄想についての対応の仕方を考えていく必要がある。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 受診時の帰りなど、本人希望で買い物をしたり知人に会ったりと臨機応変に対応している。 (外部評価) 見晴らしのよい中庭やテラスの散歩、自動販売機までの買い物、近くの山道の散策、近所にある農業体験ハウスでの居住者とのふれあいなど、少しでも戸外へ出かけられるよう支援している。		今後も希望があれば行っていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月の外出は、事前に入居者に行きたいところを聞き、可能な限り尊重して外出している。家族の希望によりお墓参り等を行うこともある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフが仲介となって電話支援を行っている。入居者の中には手紙を書き郵送するなどの支援を行っている。	※	今後、一部の入居者のみなので家族の了解の下多くの入居者が出来るような支援をしていきたい。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に知人・友人の訪問がある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束にあたるものに関しては家族の同意のもと行っており、月1回のケアカンファレンスにて防止に向けて取り組んでいる。	※	研修等に積極的に参加し、身体拘束に関する知識を深め、全スタッフに浸透させていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかけず自由に行き来している。 (外部評価) ホームは小高い山の上にあり、周辺に人家等も少なく、玄関に鍵をかけることなく自由に出入りしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) フロアに必ずスタッフ1名が待機し安全の確認をするように気をつけている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 家族と相談しながら危険がおよぶ物はこちらで預かっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリ・ハットノートに記録し、ケアカンファレンスで話し合い事故防止に努めている。火災に関しては、年2回避難訓練を実施。急変時の対応の為、普通救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 平成20年7月 普通救命講習を受講する。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回避難訓練を行い、平成19年12月地域の消防団に来ていただき施設内を見学していただき、消火栓も確認していただく。 (外部評価) 地域の消防団に参加してもらい、消火栓の確認や避難訓練を実施している。	※ ※	地元の消防団を交えた避難訓練をしていないので今後実施していきたい。 ホームから少し離れた場所に民家が数件あるため、住民にも災害時には支援に駆けつけてもらえるよう日頃から協力関係を築き、災害に備えておく等の取り組みが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 神南診療所の協力のもとリスク対応を行っている。また、リスクに対し家族へ説明し、理解のもと部屋の家具等の配置を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日中・夜間の状況については、毎朝の神南診療所からの電話にて報告をし対応している。また、異変発見時は緊急なものは神南診療所で対応、それ以外は医療連携で対応する体制をとっている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 神南診療所からの処方箋を出してもらっているが、情報の共有が出来ていない。	※	今後もスタッフ一人一人が責任を持って薬の作用を理解する。必要に応じて勉強会を開きたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分チェック・排泄チェックを経過観察記録の中に取り入れ行っている。便秘のある入居者については主治医と相談のもと服薬を行っている。	※	服薬に頼らず食事のメニューで食物繊維の摂取等に気を付ける。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 週1回のポリデントにて洗浄を行っている。毎食後口腔ケアに対して出来ていない入居者に対しての声掛けが不十分である。	※	毎食後、口腔ケアへの声掛け・支援を行っていく。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量・水分摂取量のチェックを行っている。また、咀嚼の低下している入居者に対しては食事の形態を変え、嚥下が低下している入居者に対してはトロミをつけて対応したりと臨機応変に支援している。 (外部評価) 食生活の重要性を十分に認識しており、適切な栄養バランスとカロリー摂取を確保できるよう支援している。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗い・アルコール消毒を行っている。感染予防のマニュアルをもとに予防を行っている。（インフルエンザ等）	※	今後もインフルエンザに関しては予防接種を行う予定である。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日の配達にて新鮮な物が送られている。毎日まな板・布巾等の消毒をしている。	※	食中毒についての勉強会も行っていきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 出来るだけ玄関を開けて入りやすい状況を作っているが、初めて来られる方はインターホンを押されている。	※	季節に合った環境作りを行い、玄関に表札等にて入りやすい状況を作っていきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 電気については天気の良い日等は消すよう取り組んでいるが、テレビに関してはついついつけっぱなしのときがある。共有空間に関しては、入居者に合わせて行っている。 (外部評価) 共用スペースは十分な広さがあり、畳のコーナーを利用してくつろげる空間をつくっている。対面式台所は適度な広さを有し、使いやすく、職員が居間にいる利用者の様子を見ながら調理することができる。	※	季節感のある物を多く取り入れていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者も生活に慣れたのか、人それぞれ居場所があるようであるが、新しく入居された方はまだまだ遠慮があるようで自室で過ごされることが多い。	※	一人になれる場所を今後居室以外で作っていきたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた物（着物・布団等）を持ってきていただいているが、まだまだ偏りがある。入居者によっては生活が送りやすいようにと冷蔵庫・テレビ等を持ってこられている。 (外部評価) テレビや冷蔵庫、整理タンス、ソファ等を自宅から持ち込んだり、家族の写真や手書きのカードを飾るなど、利用者それぞれが自分にとって居心地のよい居室になるよう工夫している。	※	今後も少しずつ声掛けを行い、入居者が生活が送りやすい環境を作っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 室温計を購入し各部屋に設置した。朝の清掃時は喚起している。室温については出来る方は自分で調整されているが、出来ない方については定期的に訪室し室温計で確認したり、入居者に問いかけたりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 身体状況に合わせ家族と相談のもと、生活環境を変えていき危険物に関しては固定している。	※	今後も身体状況にあった環境作りを家族と一緒にしていきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 入居者にとって十分な表示は出来ており、困難なく過ごせている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 自由にデッキにて日光浴・散歩をされている。	※	デッキにベンチやテーブルを置くことを検討し、よりよく過ごしてもらえるよう図りたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	どうしても介護が必要な入居者に時間を費やし入居者の希望に添えない方がおられる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) ③ たまにある 4 ほとんどない	入居者も一日の日課が理解されているため、スタッフもゆっくり出来る時間が作れている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	身体状況の良い入居者のペースで日課が進み、身体状況の悪い入居者は自室で過ごされることが多くなったり、反対に身体状況の悪い入居者に時間を費やし、散歩に行きたくても行けない場合があったりする。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	以前いた環境での生活の時よりも表情が豊かになり、認知症状が安定している。また、家族も安心されている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スタッフが業務に追われ言葉による抑制で入居者の要望・希望を聞き入れることが出来ないことがある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月2回の往診と体調不良時は神南診療所にて受診している。また、週1回の医療連携を受けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況や要望に応じて受診等を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己 ② 家族の2/3くらいと 評価) ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族からの不安や要望は以前に比べると多くなったが、全てにおいて家族が納得できる対応が出来ていない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ② 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	地元から入居されている方は来訪者が多いが、それ以外の来訪者は少ない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議により地域の方の理解が少しずつ得られ、自治会長はインターネットにてグループホームの紹介をして頂いた。
98	職員は、活き活きと働けている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士、仲良く出来ている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ケアプランは家族の意向がどちらかと言えば強いように思う。また、入居者への説明が不十分である。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	プランの説明は3ヶ月ごとに行っているが、「任せます」といったことが多いので、ケアプランに関してはまだまだ無関心な家族が多いように感じる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

施設の周りは自然が多く、新鮮な空気の中で生活を送っています。テラスからは大瀬の町並みが一望できます。施設の設備は他の施設に比べまだまだ整っていないと思いますがスタッフの工夫により頑張っています。また、東棟は 笑顔であいさつ・笑顔で仲良く・笑顔で助け合いを理念に掲げ日々楽しく生活を送っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム慶雲

(ユニット名)

西棟

記入者(管理者)

氏 名

松田幸博・山上真弘

評価完了日

平成 20 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 会社全体での理念が3つあり、各ユニットのフロアに掲示している。また、西棟フロアの理念も、入居者の意見を聞きながらスタッフ全員で考えた。フロア理念3つ目の「家族や地域との交流を深め、生きがいが持てる」はできつつあるがまだまだである。	※	フロア理念3つ目の「家族や地域との交流を深め、生きがいが持てる」を実践できるようにもっと行事に参加するなどよくしていきたい。
			(外部評価) 創設以来大切にしている法人の理念に加え、各ユニットごとに具体的でわかりやすい理念を、職員全員で話し合っている。	※	理念について積極的に取り組んでいるが、さらに地域密着という概念を充実させ、地域の中でその人らしく生活することを支えるケアを実現する理念を検討することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 西棟は職員の入れ替わりが多く理念の共有が難しいが、少しずつ理念の実践に取り組んでいる。	※	全職員が理念について理解し、実践に向けて努力したい。
			(外部評価) 各利用者の持てる力をフルに活用して、笑顔で仲良く助け合い、自由に自分らしく生活できるよう、日々実践に取り組んでいる。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ケアプランの説明の実施。 前回と比べ運営推進会議や広報を通し浸透しつつあると思う。	※	引き続き家族には家族会等を通して、地域の方には地域行事や地域での集まりに参加して呼びかけ、理念を理解してもらえるよう取り組んでいきたい

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 場所が民家から離れている為あまり来られないが、散歩の時などには挨拶をして声を掛けている。	※	事業所の行事に参加して頂くよう積極的に呼びかけていく。又、これからも気持ちの良い挨拶を心掛け交流を深めていきたいと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 学生ボランティアの受け入れなど積極的に行っている。地域の球技大会、草かりをする道作りなど引き続き積極的に参加している。又、地域の方から呼びかけもして頂いている。 (外部評価) 自治会には加入していないが、地域からの呼びかけがあり、運動会、農業祭、道路清掃、球技大会、映画会などの地域行事に積極的に参加しながら交流を深めている。	※	地域に貢献できる道作りには引き続き積極的に参加していきたい。又、以前と比べ地域の方から呼びかけをして頂いているので可能な限り参加していきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の清掃活動・球技大会などの行事に参加しているが事業所の力を活かした地域貢献はまだ出来ていない。	※	年末に地域の方に門松を作って持ってきて頂きお世話になった。ホーム内行事も参加して頂くよう呼びかけをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 西棟では職員の入れ替わりが多く今回が初めてという職員が多く理解不足である。 (外部評価) 職員全員が各々自己評価をすることで気づきがある。ミーティング時にそれぞれの自己評価を出し合い協議することで、新たな考え方や思いを知ることができ、ケアの質の向上に役立っている。	※	事前に職員全員で自己評価を行いどんなものなのか理解できつつあると思う。まだ、おおまかな事しか分かっていないと思う為、徐々に理解を深めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヵ月に1回、会議を開催し、意見交換している。参加者の意見を参考にし、施設が良くなるよう取り組んでいる。	※	職員では気づかない点が会議の時の意見として出る事がある。その意見を活かし可能な限り取り組んでいきたい。
			(外部評価) ホームの状況報告のみでなく、認知症や救命救急法、栄養管理等に関する勉強会も実施している。また、自治会長、区長、民生委員など地域の有識者を新たにメンバーに加えることで、活発な意見交換ができるようになってきている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 町内の5つのグループホームが集まる、グループホーム連絡会議が毎月1回行われている。9月には合同運動会を行い、行政職員の方にも来て頂いた。分からない事があれば電話をし教えて頂いたり来所して頂いたりしている。	※	地域の方や家族の意見も取り入れながら、より充実した会議になるよう努力していきたい。
			(外部評価) 町グループホーム連絡協議会の活動などを通し、連携を深めている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内の会議で取り上げられ勉強した事があるが、まだまだ理解不足である。	※	権利擁護に関する制度についての研修会に一人でも多くの職員が参加していきたい。また、参加した職員は全職員に伝えられるよう勉強会を行っていききたいと思う。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) おおまかには分かっているがまだまだ不足する点はある。	※	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待防止の徹底に努めていきたい。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書に沿って説明している。その都度質問に答えながら、理解・納得を図っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 不満が出た場合には、話を聞きケアカンファレンスなどで話し合い改善できるようにしている。又、意見箱を設置しているが入居者が利用した事は現在のところない。	※	意見箱を利用するのではなく直接職員に話されている方は今まで通り話を聞いていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月、事業所の様子を載せた新聞を発行し家族に送っている。その際、職員の異動等も記載している。		
			(外部評価) 利用者の暮らしぶりは、毎月発行のホーム便りで詳しく知らせている。また、健康状態や金銭管理の状況については、家族がホームに来院した際に報告している。	※	一人ひとりの生活全般に関する状況については、方法を工夫しながら、更に詳しい状況をこまめに家族に伝えていくことが求められる。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に苦情を受け付ける場所を明示している。また意見箱を設置し、来訪者が自由に書いて入れられるようにしている。何件か苦情が出てその事に対して職員で話し合いを行っている。	※	家族の意見に耳を傾け、よりよいグループホーム作りに取り組んでいきたい。
			(外部評価) 運営推進会議にも参加してもらい、気軽に意見を出してもらえよう配慮している。車いすを歩行器に変えてみてはという意見をもらい、実行に移すことができたケースもある。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体で月1回業務カンファレンスで話し合っているがそれ以外でも随時、管理者は職員の意見を聞いている。	※	いろいろな意見や提案を聞きより良いグループホームにしていきたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 基本は日中3人体制、夜間は1人体制だが、状況に応じた勤務の調整を行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 会社内にある他の部署への異動があるが、必要最小限に抑えている。代わる場合には利用者にもきちんと伝え、お別れ会をしていたが混乱が見られた為、あいさつは必要最低限でとどめている。聞かれた場合はきちんと説明している。 ----- (外部評価) 運営法人のグループホーム開設が相次いだこともあり、法人内やフロア間での異動がある。しかし、引き継ぎには十分な時間を取ることで、利用者に影響がないよう努めている。	※	異動や離職時職、1日でも早く職員には環境に慣れてもらい、入居者へのダメージを防ぐ配慮を引き続き行っていく。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年に2回各施設合同の勉強会を実施している。また、社内では月1回ホーム長会議を実施し、意見交換をして質の向上に努めている。 ----- (外部評価) 運営法人としての基本研修、ホーム内での課題研修を実施しているほか、グループホーム連絡協議会等が実施する研修にも順番に参加している。	※	3ヶ月に1回施設で勉強会を実施している。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 毎月1回、町内のグループホーム管理者が集まり、情報交換をしている。それを業務カンファレンスで報告するようにしている。内子町の5施設主体の勉強会とうちこ園で行った勉強会に参加した。 (外部評価) 町グループホーム連絡協議会が実施するイベントや会議を通して、相互の交流や情報交換を行っている。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 忘年会や他施設での花火見学などを行いストレスを軽減できる場を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は多忙な為訪問回数が少なくなり状況把握できていないか分からない。スタッフは少しずつ向上心を持って業務に取り組んでいる。	※	常時訪問して頂くよう呼びかける。 一人ひとりが向上心を持って、資格取得や研修会への参加に取り組んでいる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り本人の意向を聞いている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前調査やホーム内の見学時に可能な限り家族の意向を聞いている。 5月に実施した家族会の時にも再度話し合いを行った。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、グループホームとしての入居に対しての必要事項を聞いている。	※	しっかり話を聞いた上で本人と家族にとって何が必要かをみつけ必要なことを実施していく。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前にホーム内の見学をしてもらっている。入居初日には、できるだけ長く家族の方と一緒に過ごしてもらい徐々に馴染めるようにしている。 初期のケアプランに取り入れ全職員が取り組んでいる。		
			(外部評価) 入居前に、事前調査として自宅や病院等を訪問し、本人及びその家族、医師、ケアマネジャーなど関係者に状況を聞いている。また、事前に本人、家族に来訪してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。	※	利用者の意向を十分に汲み取れるよう、気づいたこと等をこまめに記録するとともに、職員で共有してケアに活用していくことを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 職員と一緒に行事やレクリエーションに参加する事で楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。	※	楽しい時間が過ごせるようないろいろなレクリエーションや行事を考えていきたい。
			(外部評価) 言葉使いや、料理の味付けなどの家事全般において、利用者の知恵をかしてもらっている。また利用者の「ありがとう」という一言に支えられ、常に互いを支えあうという気持ちが表れている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にケアプランや生活状況についてを説明したり、一緒に行事に参加して頂けるよう呼びかけている。	※	家族の方が仕事の関係上なかなか行事に参加して頂けないが、できるだけ行事に参加して頂けるよう工夫していきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族会を実施し楽しい時間を過ごす事ができた。又、面会時は家族と一緒に居室でゆっくりとお茶を飲みならゆっくり過ごされている。	※	次回も家族会を実施し前回よりも良い場となるようにしていきたい
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容室に家族に連れて行って頂いている。電話や手紙のやりとりを行っている。	※	プライバシーに配慮しながら支援していきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒にレクリエーション・行事に参加するなど仲良くできていると思う。トラブルの時は職員がフォローしている。	※	入居者全員で何かを作成し喜びを分かりあえる場を作っていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 長期入院により退去となった入居者の方やそのご家族とは連絡をとっている。 入院された方は面会コミュニケーションを図り気づいた事があれば家族に報告するようにしている。	※	入院があった場合は外出があった時などにお見舞いする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりに希望を聞いているがこちらの一連の流れで過ごしている事が多くまだまだその人らしい生活は送れていないと思う。 (外部評価) 日々の生活の様子から汲み取るほか、職員から働きかけて意向を引き出すよう努めている。	※	可能な限りその人らしい生活が送れるよう援助していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の事前調査である程度把握しておき入居後に分からないことがあれば、家族に尋ねている。又、気になった点は面会時に聞いている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 事前調査である程度聞きそれを元に記録に残している。変わった点があれば記録に残しスタッフに申し送っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、ケアプランを作成している。月に1回ケアカンファレンスを実施し自分以外の職員の意見も取り入れ計画している。 (外部評価) 職員がそれぞれ自分の担当する利用者についてチェックを行い、月1回のカンファレンスで共有し、気づきや意見を話し合って具体的な介護計画を作成している。	※	職員の視点だけのケアプランにならないよう本人からも意見を聞きより良いプランにしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月に1回ケアカンファレンスを行い、評価、見直しを行っている。変更が必要な場合もう1度本人、家族に意見を聞き新たにケアプランを作成する。 (外部評価) 短期目標も設定し、現状に即したケアを常に意識して実践に取り組んでいる。短期については3か月という期間を決めているものの、毎月評価と見直しを行い、必要があれば随時新たな計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護記録をなるべく分かりやすいように記入している。 個別記録には月1回のケアカンファレンスのまとめ、ケアプランを綴じており分かりやすいようになっている。	※	第3者が見て分かりやすいように記録していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 状態が悪い時は病院連絡後受診をしている。その際、家族にも連絡している。又、毎日朝の電話連絡時状態を報告している。 かかりつけ医でもあり状態は1人1人分かっている。 (外部評価) 医療機関への受診など、本人及び家族の状況や希望に応じた柔軟な支援を行っている。	※	今後はさらに要望を十分に汲み取るための工夫を重ね、より柔軟に対応できるよう、支援体制を充実していくことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 保育園児や地域のサロンの方に来てもらい、交流をした。 ボランティアも受け入れており地元の中学生、高校生が現場体験を実施した。 消防署の避難訓練・普通救命講習を実施した。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 事例がない。	※	機会があれば考えていきたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) まだ計画していない。	※	今後、機会があれば行っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 家族から納得されているかかりつけ医であり適切な医療を受けられるよう受診、往診を支援している。 (外部評価) かかりつけ医と協力医療機関が連携し、利用者の健康管理を支援している。協力医療機関とは、毎朝利用者の状態を報告し、また月2回往診に来てもらっている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 神南診療所にて対応している。また、平成病院などの専門の協力医療機関がある。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 毎朝、神南診療所より、電話連絡があり、1日の状態報告をしている。又、医療連携体制がとれおり週に1回看護師が訪問し状態確認をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、主治医と相談し、情報交換している。又、家族にどのように対応するかを家族にも説明している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居契約時に終末期医療についての資料を渡して説明している。又、何か不安な事がある場合は病院に連絡すると医師が家族に説明するようになっている。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する具体的な指針をつくり、入居時に説明を行い、必要に応じて医師を交えての話し合いも行っている。	※	緊急時の対応はまだ不安だがその時は出来るだけ適切な対応を行いたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 重度や終末期には、主治医・医療連携の看護師と話し合い、家族にも十分な説明を行った上で対応する。	※	しっかり観察をし気になる点があった場合は主治医に細かく連絡する。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人・家族と話し合い納得し移動となる。他の施設のケア関係者は情報提供書と話し合いの場を持ち情報交換している。	※	可能な限り他施設の関係者には引き続き情報を提供する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 前回面会簿を1つのファイルにまとめていたが個別にする事により改善出来た。入居者への対応ではプライバシーを損ねないような声かけを特に注意している。	※	引き続きプライバシーの確保が出来るよう声かけに注意し取り組んでいきたい。
			(外部評価) 声かけや介助の際にプライバシーを損ねないよう配慮している。職員には守秘義務について繰り返し指導を行っている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 働きかけはしているがまだまだ一人ひとりの能力を見極められておらず困難。	※	時間はかかるがしっかりと本人の伝えたい事をよく聞き分かりやすいように説明していく。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 業務に追われ入居者の希望等にそった支援が出来ていない。 (外部評価) 積極的に家事をする方、毎日歩いて畑を見回る方、カラオケや歌を楽しみにしている方、自分の育てる花を大事にしている方など、その人らしい暮らしを送っている。	※	職員がゆっくりした時間がない為、ゆっくりした時間を作り入居者と接していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 行きつけの店を希望される方は家族の協力のもと外出される。希望時は、出張理容、美容サービスを利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事はほとんど職員が作っている事が多い。下膳の出来る方には自分で下膳してもらっている。 食事介助は介助が必要な方が多く一緒にとれていない。 (外部評価) 利用者と職員が一緒になって料理の下ごしらえをしている。座席の配置を工夫して、会話の弾む楽しい食事の雰囲気をつくっている。	※	食事作りの協力、後片付けなど参加してもらえるよう呼びかけ一緒に行えるようにしていきたい。最後の盛り付けは入居者にやって頂くよう呼びかける。なるべく一緒に食事がとれるようにしていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒を飲む方・牛乳を飲む方など一人ひとりの状況に合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) トイレ誘導が必要な方は定期的に声かけし、失敗を防ぐよう努めている。	※	一人ひとりの排泄パターンを把握し自立支援に努めていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 業務の都合で、希望通りに入浴できない時もある。毎日入浴を実施し、入居者全員がバランスよく入浴している。 (外部評価) 利用者が入浴したいと思った時にできるような支援体制を整えている。また、羞恥心を考え、介助する職員の性別にも配慮している。		可能な限り本人の希望時に入浴できるようにしていきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は21時と設定しているが一人ひとりの生活習慣に合わせて早く寝る方はそれまでに入眠されている。不眠時は安眠できるように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一部の入居者の方しか役割がなく全員が役割を持っていない。 (外部評価) 買い物、洗濯など利用者それぞれが得意な家事を行うことを大切にして見守っている。また、野球や相撲観戦、新聞、風船バレーなど、それぞれの楽しみごとを支援している。	※	一人ひとりその人しかできない役割などをみつけていき満足してもらうよう援助していきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお金は事業所で管理しているが、本人希望で自分で管理したい方は少ない額を本人が管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩、外出を行い気分転換を図っている。 (外部評価) 見晴らしのよい中庭やテラスの散歩、自動販売機までの買い物、近くの山道の散策、近所にある農業体験ハウスでの居住者とのふれあいなど、少しでも戸外へ出かけられるよう支援している。	※	外出拒否が強い方に対しては無理やり連れていこうとはせずその方が気持ちよく外出できるように考えていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ホーム内の行事では入居者の意見を聞き実施しているが個別的外出支援は困難である。	※	個別的外出は家族の協力が必要な為、家族に相談し、実施していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話希望時には電話をかけ対応している。手紙のやりとりも実施している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問者が気を使わないような雰囲気作りを行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベッド柵使用、ミトン使用などのやむをえず身体拘束が必要な方には家族の許可を得て行っている。また、ケアカンファレンスにて防止に向けて話し合っている。	※	まだ全ての職員が身体拘束の全てを把握できていないので勉強会、研修会への参加をしていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 戸には鍵をかけず職員は入居者の見守りをしている。	※	今のところないが帰宅願望が強く頻繁に外に出て行こうとされる入居者がいた場合はどうするか考えていく必要がある。
			(外部評価) ホームは小高い山の上にあり、周辺に人家等も少なく、玄関に鍵をかけることなく自由に出入りしている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は3名、夜間は1名職員が常時待機しており安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) ハサミなど入居時に危ないと思われる物は家族と話し合い一人ひとりの状態に応じて預かっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ケアカンファレンス・業務カンファレンスの時に話し合いを行っている。まだまだ、知識不足な点が多いので不安である。 ヒヤリハットノートを活用している。 看護師を交えた勉強会を行った。	※	引き続き看護師を交えた勉強会の実施。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 年に1回消防署の職員指導による普通救命講習を実施している。 緊急連絡網を作成しており必要時は電話連絡する。	※	年に1回実施しているが忘れていた事もあるので一人ひとりが日頃から注意していきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回避難訓練を行い、平成19年12月地域の消防団にきていただき施設内を見学していただき、消火栓も確認していただく。 (外部評価) 地域の消防団に参加してもらい、消火栓の確認や避難訓練を実施している。	※ ※	避難訓練時に地域住民の方に参加して頂けるよう呼びかけしていく。 ホームから少し離れた場所に民家が数件あるため、住民にも災害時には支援に駆けつけてもらえるよう日頃から協力関係を築き、災害に備えておく等の取り組みが望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居当初と状態の変化時にリスク対応について家族と話しあっている。	※	おおまかな事しか話せていないので、家族がもっと安心できるような対応策を話していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝、バイタルチェックを実施している。状態が悪いと思われる時にも実施し記録に残し、スタッフ間で情報交換している。朝の電話連絡時と急変時に主治医に連絡をし指示をもらっている。医療連携の看護師にも状態を報告している。	※	バイタル表の作成。状態が悪い時は職員間でしっかり情報を伝える。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の表をつくり使、作用・副作用が分かりやすいように工夫している。薬係はほとんど把握できているが、全職員には理解できていない。	※	一人ひとりが薬の重要さを分かってもらえるよう勉強会を実施する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝の体操、散歩の声かけ、水分摂取量の確認を行っている。便秘時は主治医の指示のもと薬を処方している。特に重要視される方はケアプランに入れている。	※	便秘の方も何名かおられる為、可能な限り体を動かすように体操を実施していきたい
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアのチェックの実施。歯磨きの声かけ、一部介助の実施。毎週火曜日に義歯洗浄を行っている。	※	自立している方はまかせっきりでしっかり確認できていない時がある為、きちんと確認するように心掛けていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量は毎日チェックし記録している。食事はほとんどの入居者が毎回全量食べられている。1日1000cc程度を目標に水分摂取をして頂いている。 (外部評価) 食生活の重要性を十分に認識しており、適切な栄養バランスとカロリー摂取を確保できるよう支援している。		水分量が少ない入居者に対して好みを把握ししっかり水分が摂取できるように取り組んでいく。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 手洗い、アルコール消毒を行っている。職員全てが感染症についての知識は完全には把握できていない。	※	勉強会、研修会に参加し、一人ひとりが知識の向上を図る。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、ふきん等は毎日消毒する。調理時にはしっかり手洗いしエプロン着用での調理の実施。食材は新鮮なものを配達してもらっている。	※	食中毒の予防の勉強会・研修会の参加。環境整備係を中心とした衛生管理の実施。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 1人で外に出て行こうとされる入居者がいるがなるべく鍵はかけず対応している。 入居者、面会者は気がねなく出入りができている。	※	玄関周りにプランターを置き花を植えたりし親しみやすい雰囲気を作っていきたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアには季節の写真・季節にあった折り紙などの作品を掲貼ってあり季節感を採り入れている。又、テレビの音量にも注意している。 (外部評価) 共用スペースは十分な広さがあり、畳のコーナーを利用してくつろげる空間をつくっている。対面式台所は適度な広さを有し、使いやすく、職員が居間にいる利用者の様子を見ながら調理することできる。	※	レクリエーション係が中心となり今以上に良くなるう工夫していきたい。又、家族、入居者などの声も聞き参考にし居心地の良い空間づくりをしていきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアのソファに座りテレビを見たり他の入居者と話しあったりしている事がある。自分の好きな時に居室で過ごす時間もある。	※	気の合わない方同士でもめないように注意が必要。お互いに居心地の良い空間を作っていきたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔の写真・馴染みのある家具などを持ってきてもらい入居者が安心できるよう家族に呼びかけている。 (外部評価) テレビや冷蔵庫、整理タンス、ソファ等を自宅から持ち込んだり、家族の写真や手書きのカードを飾るなど、利用者それぞれが自分にとって居心地のよい居室になるよう工夫している。	※	馴染みのあるもの以外でレクリエーションで作ったものなど何かその方が喜ばれ安心出来るものがあつた場合は飾っていきたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 室温計を設置し気温に注意している朝掃除の際、窓を開け喚起している。温度調節は入居者の声を聞いて行っている。	※	特に温度調節には注意し、こまめに入居者の方に適度か聞くよう心掛けたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりが建物内に必要な箇所に設置されており安全に自立できるよう工夫してある。	※	ほとんどの箇所にバリアフリーが整っており大丈夫だと思うが職員がちょっとした事でも気になる事があったら話し合い改善していきたい。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) トイレの戸に大きな字で「便所」と書いているなど場所が分かりやすいように工夫している。	※	各自の居室がネームプレートに名前を書いているだけなので居室が自分の部屋だと分かるように工夫していきたい。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) テラスを散歩したり景色を眺めたりなどして楽しみ入居者はこの場所を気に入っていると思う。 植物や野菜を育て喜びを感じてもらう。	※	テラスで季節ごとの行事を行い四季を感じて頂くようにしたい。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己 ② 利用者の2/3くらいの評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	入居者の思いを聞き出来るだけ希望にあうように取り組んでいるがうまく自分の気持ちを表すことができない方には本当に出来ているかは分からない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己 ② 数日に1回程度ある評価) ③ たまにある ④ ほとんどない	以前に比べると職員一人ひとりが仕事に慣れ、少しずつ入居者と接する時間が増えつつある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己 ② 利用者の2/3くらいが評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	各自、自分のしたい事は自分のペースで行っているが、介助の必要な方は職員のペースになっている事があると思う。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己 ② 利用者の2/3くらいが評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	外出、レクリエーションなど嬉しそうに参加され、生き生きした表情がよく見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己 ② 利用者の2/3くらいが評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	今の現状では急にそこに行きたいと言われた場合すぐに近くの場所に散歩に行く事は出来るが施設から遠い場所へ願い通りに行く事は困難である。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己 ② 利用者の2/3くらいが評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	神南診療所の往診が月2回あり先生が来られた時利用者の方は安心されている。週に1回の看護師の医療連携も実施している。常に職員も安全面に気をつけている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己 ② 利用者の2/3くらいが評価) ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	その都度可能な限り要望に答えているが、一人ひとりの希望通りには答えられない時もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己 ② 家族の2/3くらいと評価) ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会時などに困っている事を聞いたりして少しずつ信頼関係ができていくと思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己 ② 数日に1回程度評価) ③ たまに ④ ほとんどない	行事の呼びかけをした時に来られるくらいで頻繁には来られない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の行事の参加の誘いが多くなり地域住民の方々に受け入れて頂けつつあると思う。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の入れ替わりが多く困惑した事もあるが、職員一人ひとりが協力しあい働いていると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不満を聞くことがあまりないが、満足されている方が多いのではないかとと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族の面会時に入居者の体の状態・サービスの現状を説明しているがだいたいの方が「安心しました」と話される。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者とスタッフが、気持ちの良い挨拶で1日をスタートできます。

スタッフは介護の仕事が初めてという人も多いのですが、日々勉強しながら頑張っています。

建物では、見晴らしの良いテラスが自慢で、利用者の皆さんにも気持ちよく散歩ができると好評です。

毎朝6時30分からの体操には、ほぼ全員参加され、健康な体づくりに励んでいます。

フロアの理念は、利用者の意見も取り入れながら、スタッフ全員で考えました。

1、笑顔で自由に、自分らしく生活できる。

2、おいしく食事ができて、健康に暮らせる。

3、家族や地域との交流を深め、生きがいを持てる。

この理念を実践し、利用者にとって、またスタッフにとっても居心地の良い、

ここに住んでいたいと思えるグループホームにしていきたいと思います。

職員間、悩み事が話せる程仲が良いです。

近くに民家がなく寂しいがとても静かな環境でのんびり生活が出来る所です。

利用者の方皆様とても明るく楽しく生活されています。